

大森廻漕店

食品輸入と現地企業開拓を

大森廻漕店はCLMV (カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム) 戦略や東南アジアへの投資を進める一貫として2012年10月、タイ・バンコクに「Ever Gain&Omori (Thailand)」を開設した。同社自体は香港合併会社の「永得利大森貨運」が設立したものである。現在の陣容は原田哲雄マネージングダイレクター(MD)を含め5人。海上、航空フォワーディング、越境陸送、倉庫業務、梱包作業、包装資材設計、包装資材販売を手掛ける。

同国では、輸出入者として貿易決済や決済代行もやっている。また、冷凍食品輸出入者ライセンスを取得しており、冷凍冷蔵食品の輸入代行が可能だ。原田MDは「現在、日本から冷凍のオイスターの輸入を手掛けている。食品を輸入する際には、当局との諸手続きもあり、ハードルも高いが、ビジネスを開始する段階では当社サービスをご利用いただければ、サポートが可能だ」と語る。

売上高セグメントとしては、海上輸入が6割、海上

輸出が2割強と、海上が大半を占める。食品関係では中国・青島からカット野菜を定期的に海上で輸入する案件もある。

倉庫業務では商船三井タイが筆頭株主の「BANGPOO INTERMODAL SYSTEM」にも一部出資しており、同社が保有する施設も活用している。バンコク近郊のバンナ地区やレムチヤパン港の倉庫で輸入貨物を取り扱う。

フォワーディング、ロジスティクス、倉庫業務とも営業面では、「現地企業との接点を増やし、開拓していく必要がある。カスタマーサービスを行うナショナルスタッフには、顧客のニーズを細かくヒアリングするよう指示もしている」とする。また、同国に進出した日系企業の歴史は長く、取引関係やサプライチェーンも出来上がっているケースも多いため、「新規にタイ進出を検討している企業や業種の動きを的確につかみ、アプローチしていく」。事業戦略的には、大森廻漕店グループが展開する中国、香港、ベトナム、カンボジア、インドとの連携も進めていく。越境陸送では一部、ミャンマーからタイ経由で日本向けに輸送する案件もあった。



原田哲雄マネージングダイレクター